

安全で安心な仙台製造所を目指して

J F E スチール株式会社 棒線事業部 仙台製造所 安全健康環境防災室長 谷田部勝則

J F E スチールは、「常に世界最高の技術をもって社会に貢献します」という企業理念のもと、独自性や機能性の高い「鉄」を製造し、社会に提供しています。国内製造拠点は北から仙台製造所、東日本製鉄所（千葉、京浜）、知多製造所、西日本製鉄所（倉敷、福山）の計6拠点あります。そのうち、仙台製造所は自動車部品や建設機械・産業機械部品等の特殊鋼を中心とした鉄鋼製品を生産しています。

J F E スチールでは、毎年全社防災訓練として本社と6製造拠点での合同訓練を実施しています。防災担当者が変わっても対応できるように繰り返しの定期訓練とともに、基本的な防災活動要領や流れを確認するために行っています。毎年の合同訓練ではマンネリ化を防止するため、想定地震内容を変更して被災地区としての対処方法や支援地区としての役割・やるべきことを確認するとともに、開発課題を明確にして全社防災活動を活性化させています。本年は新型コロナウイルス感染症防止のため、3密の回避を考慮してテレビ会議ではなくパソコン会議での訓練としました。実際に被災時にはネットワークが繋がるのかや東日本大震災の教訓についていま一度確認すべきではないか等の意見があり、全社で更なるレベルアップを図っていく所存です。

来年で東日本大震災から10年が経過します。仙台市においては甚大な被害を受けたことから、各社において避難場所の指定や定期的な津波想定訓練、非常食の確保等を実施していると思います。当製造

所においては、上記に加えて新設した管理センターの1階には執務室を設置しないこと等、従業員の安全を配慮した対策を講じてきました。10年経った今、改めて振り返ると、スマートフォンに代表されるように、この10年間で我々の生活環境や防災危機意識は大きく変わっています。

特に生活環境の変化といえば、今年の春先から世界中で大流行した「新型コロナウイルス感染症」です。当製造所でのコロナ感染症防止対策として、健康管理としては手洗い・うがい・アルコール消毒等の基本行動の励行や入社時の健康チェック、厚生労働省推奨接触確認アプリ（COCOA）の導入等、また3密の回避としては在宅勤務やパソコン会議活用による国内移動削減、マスクの着用、執務室でのパーティション設置、屋内喫煙室の廃止等を行っています。

毎年様々な地域で異常気象に伴う自然被害が起きていることから、万が一、いま仙台市で震災が起きた場合、コロナ感染症防止対策も含めて現状の防災対策で必要十分なのか、ベストな方法なのかと危惧します。寺田寅彦の警句「天災は忘れたころにやってくる」を思い出すと、10年前に講じた防災対策よりも、もっと有効な、もっと効率的な、もっと便利な方法を考え抜かないといけない時期であると改めて感じます。今後、宮城野地区の皆様と議論をさせて頂き、各社の良好事例を積極的に取り込んでいきたいと思っています。



管理センター正面玄関



執務室（パーティション）

新型コロナウイルス感染症防止対策